



TITLE:

静脩 Vol. 31 No. 4 (1995.3) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 31 No. 4 (1995.3) [全文]. 静脩 1995, 31(4)

ISSUE DATE:

1995-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66016>

RIGHT:



静脩

1995年 3 月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 31, No. 4

館長在任 3 年間を顧みて

附属図書館長

朝 尾 直 弘

3 年前、はからずも附属図書館長に任命されてから、いつのまにか任期が満ち、あわせて退官の日をむかえようとしている。就任早々は、自分自身を館長サナギと思い、いつかは立派な館長(蝶?)になれるつもりでいたが、はたして思いどおり羽化できたかどうか、すこぶるところもとない。

あたえられた機会に、在任中印象に残ったことからのいくつかについて触れてみよう。

(1) 図書館予算のこと

私は、附属図書館長に選出されるまでは、商議員でもあったことから、附属図書館の財政面の困難な状況は聞き及んでいたものの、これほど窮屈であるとは正直なところ想像もしていなかった。いろいろ予算の割り当てはあるが、ほとんどがいわゆるヒモつきで用途が指定されており、大学の個性を生かした図書購入ができない。購入費に限られ、単価が上昇するなかで、学生用図書の選定委員会も、その活動はほとんど有名無実に近い状態におかれてきた。このままでは蔵書の体系に大きな欠落を生じ、将来に禍根を残すことになる。

さいわい、最近になって、井村総長をはじめ、各部長および事務局等の理解を得て、部局長会議の席で附属図書館の予算を中心に、懸案事項を含め、こまかい数字をあげ、実状を申し述べる機会を与えていただいた。その結果、今年度の配分として、学生用図書購入費と CD-ROM サーバーシステムが別途予算化されたことは、まことに有り難く、感謝に堪えないところである。

しかし、現在の図書館予算の枠組みが決められて

から12年経っており、運営費は当初の2倍以上にふえている。これは図書館をめぐる状況の変化に対応した面もかなりある。情報メディア変革の急速な進展にともなう、さまざまな新しいサービス業務が図書館に負わされており、その課題をはたすためには、恒常的な手当が必要である。現在進行中の各部局の改編問題ともからんで、大学全体として抜本的に検討し改善すべき点は多い。

附属図書館では、昨秋以来、将来構想検討委員会を設置して、京都大学における図書館の近未来のヴィジョンをさぐり、このほど中間まとめを商議会に提出、本格的な検討に入ることになった。そのなかには、土日開館などサービスの質の向上から組織の見直しまで、多様なテーマがあがっている。学内諸賢のご支持のもとで、よき成果の得られることを期待している。

(2) 今昔物語集のこと

今昔物語集(鈴鹿本)九巻は、鎌倉時代に筆写されたものと考えられており、数ある写本のなかでも現存諸本の祖本とみなされている。虫害による傷みはなはだしいため、閲読を厳しく制限されていた。「幻の写本」とよばれたのはそのせいであった。私自身、館長になって、はじめてまのあたりに観ることができ、日本史を専攻するものとして、たいそう興味をそぞられた。

もと図書館におられた鈴鹿三七氏の縁で、氏の遺志と子息紀氏のご厚意により京都大学に寄贈いただき、文化庁の指導の下に3年の歳月をかけ補修を完成した。その過程で、綴じ紐にもちいられていた紙

繕りを科学的分析にかけたところ、これについてはほぼ鎌倉時代のものであることが判明した。

今回の補修により、これから数百年間は補修する必要はないとも聞いている。このような貴重な資料は、人類の文化遺産であり、多くの人々の長期にわたる手厚い保護によって伝えられてきたものであり、図書館はさらに後世のためにこれを保存し、伝承する責任がある。目下、写真製版による複製本を刊行し、内外の研究者の便宜をはかる計画をすすめている。図書館のこうした活動は、これからもいっそう広げ、強められなければならない分野である。

現在、鈴鹿本は国の重要文化財の指定をうけるため、東京にはこばれている。私事ながら、京大最後の年に文化財保護審議会の専門委員として、このことにかかわることができたのはふしぎの縁というほかに、ひそかに喜びとしている。

(3) 日米ワンデイセミナーのこと

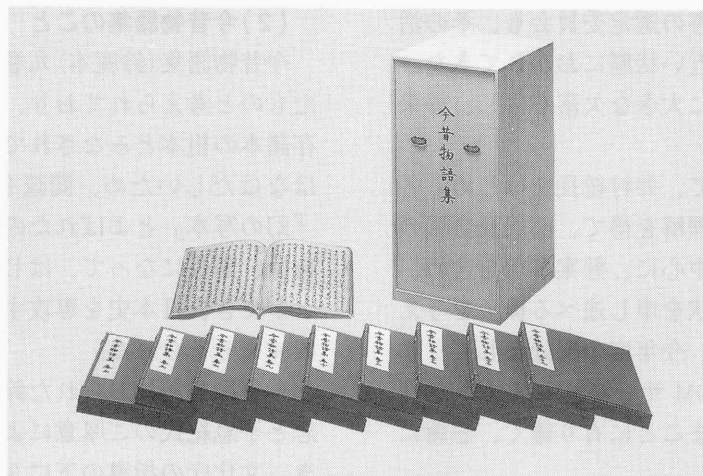
3年前、私は学部長の任期満了をひかえ、向う3年間の詳細な研究計画を立てていたので、館長選出は晴天の霹靂のごとく、ほとんどなすすべもない状態であった。その私に、図書館もおもしろいところだと思わせるようにしてくれたのが、就任早々にぶつかった日米大学図書館会議であり、京都で行われた日米ワンデイセミナーであった。前者がメンバー限定の正式会議であったのに対し、後者は自由参加のオープンセミナーで、京大が中心になって運営を担当した。

セミナーには、日米およそ400人が一堂に会し、過渡期に置かれた大学図書館の現状と当面する課題について、熱心な討議をくりひろげた。エレクトロニック・キャンパス、学術情報の国際流通、資料の保存、図書館サービスと著作権、というテーマをみ

れば、その今日性がわかるだろう。図書館員の職業人としての仕事に対する熱意と、研鑽に対するひたむきな意欲を感じとることができたのも収穫であった。私個人にとっては、館長学入門といった性格をもち、かつてアメリカ滞在中に漠然と感じていた大学図書館のあるべき姿に、理論的なすじをとおすことができたように思った。その後、毎年秋の大学図書館職員の研修会で「保存と伝達の二本柱の活動」、および「職業人としての親切なサービス」について、手をかえ品をかえ話すことになる。

学術情報伝達の将来像についての自分なりのイメージをもつことができたのも、このセミナーが機縁となっている。研究者に新しくて鮮度の高い情報をいかに早く伝えるか、分野によってこれが焦眉の課題であるところが多く、これまで主として追求されてきた領域である。それはさらに拡大されなければならない。とともに、古典のテキストのような、人類の普遍的知識となった古い情報が、古いからこそ価値をもち、いつでもだれにでも提供できるように、これからは考えていかなければならないだろう。バランスのとれた学術の創造的発展のためには、それは欠くことができない。この領域はすでに実行段階に入ろうとしている。

いま、図書館は遠い未来はみえはじめたが、現状からそこへ到達するための、近い未来の道筋を探っているところである。すでに述べたように、全学的な支援を必要とする点も多い。この方面にすぐれた見識をお持ちの新館長のもと、京都大学の図書館が飛躍の一步を踏みだせるよう、各位のご協力をかさねてお願いしておきたい。



鈴鹿本「今昔物語集」(題簽及び収納箱の揮毫は朝尾館長)

お知らせ

図書館利用証を交付します

附属図書館と総合人間学部図書館は、自動入退館システムと、コンピュータ貸出方式(開架図書のみ)を採用しており、附属図書館で発行する図書館利用証は、両館の入館証と貸出証を兼ねたものです。また、理学部所属の方は、理学部中央図書室での図書の貸し出しもできます。

(利用証の有効期限は、身分証の有効期限に準じて設定していますので)発行には、申請用紙に氏名、住所・帰省先住所等を記入の上、身分証(学生証)の提示を必要とします。

学部学生と修士課程大学院生及び博士課程大学院生は、入学・進学の際の名簿を元に利用証を一括作成してありますので、申請用紙記入後、すぐに利用証を受け取ることができます。平成7年度の新入生・新院生の利用証の交付は入学式の翌日4月12日(水)から開始する予定です。利用案内に挟んである「京都大学図書館利用証交付申請書」に必要事項を書き込み、学生証と共にお待ち下さい。下記の期間は新入生・新院生を対象とした利用証交付カウンターを設置します。

期間：4月12日(水)～4月28日(金)

9時～11時45分、13時～16時45分

場所：附属図書館1階

また、前年以前に入学・進学された方の利用証も作成保管してありますので、未だ交付を受けていない方は、附属図書館にお立ち寄りの際に申請して下さい。(但し、博士課程の方は、平成7年度から一括作成を始めたので下記により申請して下さい。)

上記以外の方(教職員・研修員・聴講生など)の新規発行と、在籍期限更新による再発行などの場合は、利用証発行までに1週間程度かかります。利用証の発行申請・交付は下記の時間帯に受け付けています。

時間：9時～11時45分、13時～16時45分

場所：附属図書館1階・インフォメーションカウンター

利用証を紛失した場合は、他者の利用を防ぐ為にも、必ず速やかに「紛失届」を出して下さい。約2週間後に新しい利用証を発行します。また、「紛失届」を出した後、利用証が見つかった場合も必ず届け出て下さい。「紛失届」を出している間は図書を借りる事ができません。また、所属(学部)・姓・住所・電話番号などを変更した場合も届けを出して下さい。

なお、紛失した利用証や旧利用証で、図書(附属図書館・総合人間学部とも)を貸出中の場合、新しい利用証が作成できませんので、速やかに返却して下さい。

(お願い)

入館の時には必ず利用証を入館機に通して下さい。矢印の方向に正しく挿入してもエラーメッセージが出る時や、入館機の中に利用証が引っかかる時は、作成し直しますので、メインカウンターまで申し出て下さい。

(資料運用掛)

新入生オリエンテーションのご案内

新年度の恒例となっている新入生向けの図書館オリエンテーションを、下記の日程で開催します。京都大学に入学された皆さんは、これから何らかの形で必ず図書館を利用する事になると思いますが、大学図書館にはさまざまなサービスや機能がありますので、その概要をオリエンテーションで紹介いたします。また、コンピュータによる利用者用目録(OPACと呼んでいます)の使い方の説明会も行います。

皆さんの、これからの学習・研究活動のプロローグとして有効な図書館利用法のヒントを提供できる事と思いますので、お気軽にご参加ください。

【開催日時・場所】

第1部 附属図書館利用案内

日時：4月12日(水)～4月14日(金)の毎日2回

1回目 12:10～12:50

2回目 15:00～15:40

場所：附属図書館三階 AVホール

内容：図書館利用案内ビデオ
利用方法の説明
貸出・返却・予約・更新等
本の探し方(目録カード・OPACの見方)
他大学との相互利用サービス
視聴覚資料(ビデオ・テープ)の利用法

第2部 OPAC 検索説明会

日時：4月18日(火)～4月20日(木)

1回目 12:10～12:40

2回目 15:00～15:30

場所：附属図書館一階 カウンター前

内容：OPACの使い方・データの見方

(参考調査掛)

中国語による附属図書館利用案内の発行について

外国人利用者向けの附属図書館利用案内は、これまで英文のものがありましたが、年々中国人留学生や来館者も多くなり、中国語で書かれた案内書の作成が待たれていました。

この度、英文のものと同一ような仕様で、中国語による利用案内のパンフレットを作成し、附属図書館カウンター及び各学部図書室にも配備いたしましたので、どうぞご利用下さい。

(参考調査掛)

附属図書館利用案内1995年版の発行について

この度、1995年版の附属図書館利用案内を作成いたしました。すでに各学部の図書室に送付しておりますので、新年度よりご使用下さい。また、新入生向けにも各学部の教務掛より配布されることになっておりますので、図書館の利用にお役立て下さい。

(参考調査掛)

図書館ツアーの実施について

参考調査掛では、本年2月より毎週1回、希望者に図書館内を案内してまわる「図書館ツアー」を行っています。毎週水曜日午前10時から30分間掛員が館内を案内しながら、図書館の施設・設備・利用法等について説明するもので、日頃学生の方には入れない書庫内を見ることができたり、目録カードの調べ方、OPACの使い方等について直接図書館員に疑

問点を聞くことができる等と、大変好評を得ています。

このツアーは3月末まで各週1回行う予定です。

(参考調査掛)

全国共同利用図書資料(大型コレクション)の利用案内について

このたび下記大学図書館より、平成5年度全国共同利用資料(大型コレクション)について利用案内がありましたので、お知らせいたします。

なお、内容明細につきましては、附属図書館参考コーナーをご参照下さい。

—記—

・東京学芸大学附属図書館

「ルドルフ・シュタイナー文献コレクション」

*内容明細あり

(参考調査掛)

CD-ROM ネットワーク検索システムの導入について

平成6年度の学内予算措置(教育研究特別経費)により、CD-ROMのネットワークでの利用が可能なシステムが導入されることになりました。ここで、内容について簡単にお知らせします。なお、詳細は追ってお知らせする予定です。

今回導入することになったシステムは、サーバー機として、UNIX系のOSを採用したワークステーションを採用しています。CD-ROMで送られてくるデータをハードディスクにロードして検索処理を行うため、直接CD-ROMにアクセスする方式と比較すると、応答速度が非常に早くなります。また、KUINSを利用することにより、学内のどこからでも、24時間体制で利用可能となり、既存のパソコンやワークステーションも、簡単な通信ソフト等を組込むことにより、検索端末として使える見込みです。

当初は、医学生物学分野の二次情報データベースである「MEDLINE」をサービスする予定ですが、将来的にはそれ以外のデータベースについても検討を予定しています。

(システム管理掛)

阪神大震災の一こま ——神戸商船大学附属図書館復旧支援から——

情報管理課受入掛

後 藤 慶 太

「これは一体どこから手を付けたらいいんだろう」
最初に閲覧室に通された時は、正直いってひざから崩れ落ちそうになった。今日は長い一日になりそうだと思った。

1月17日午前5時46分、阪神地区を襲った兵庫県南部地震は各方面に甚大なる被害を与え、図書館界においても大小さまざまな被害が報告されている。ここではその中で私が復旧作業の支援に派遣された神戸商船大学附属図書館の状況について述べたいと思う。

地震が起きた日から10日目の1月26日、この日ようやく青木駅まで回復した阪神電車の車窓から見える風景はこれまで神戸へ行くときに見慣れたそれとはやはり違い、いやがうえにも現実起こったことを痛感しないわけにはいかなかった。やがて電車は青木駅のひとつ手前の深江駅に着いた。商船大はここから歩いて5分ほどの所にある。深江といえば阪神高速が倒壊した衝撃的な映像を記憶されている方も多いことと思うが、その現場は商船大から少し大阪方面へ戻った所であった。阪神高速の橋脚はほかにも何本か座屈しており、高速の下を走る国道43号線にかかる歩道橋とはすれすれの状態であった。そこを渡る時はさすがに肝の冷える思いだった。

商船大では武道場と学生寮が避難所になっていた。また遺体安置所にもなっていたという。附属図書館は館長以下10人の職員の方は全員無事で、交通機関の関係で出勤できない方を除いて図書館の整備につとめておられた。そこでこの日から他大学の応援を得て、本格的な復旧作業の開始となったわけである。当日は京大から3人、京都教育大と滋賀医大から各1人ずつの計5人が作業に加わった。冒頭に述べた閲覧室の状況は、スチール製の書架がすべて倒れ（書架どうしはしっかりと繋いであるのだが、そんなのは全くお構いなしに）、本は散乱していた。続いて案内された書庫でも書架が倒れ、本が散乱しているさまは閲覧室と同じ。ただスペースが狭い分、まさに足の踏み場がなく、こちらの方がさらに重症に思われた。集密書架は一見何事もなかったかのようであるが、見事にそろって傾いているので、もし開けた時どんなことになるのか、こわくて途中で想像するのをやめてしまった。

さて、商船大としては新学期に間に合うよう開館したいということだったので、この日は閲覧室の方から片付けることになった。まずは雑誌のコーナーから始めたのだが、こちらはすんなりと片付いた。しかし図書の方はそうはいかない。普段書架に整然とならんでいる時は、本というのはそれほどたくさんあるとは思わなかったけれど、こうして見るとずいぶんたくさんあるんだなあ、などと本の山を見ながら変な感心をしてしまった。とにかく足元の本を拾ってみる。そうしてぼつぼつと本を集め、部屋の隅に積み上げて行き、倒れた書架を起こしていくという作業の繰り返し。はたしていつ終わるのかしらとおもいつつも夕方までにはあらかた片付き、ようやく閲覧室全体が見渡せるような状態になった。

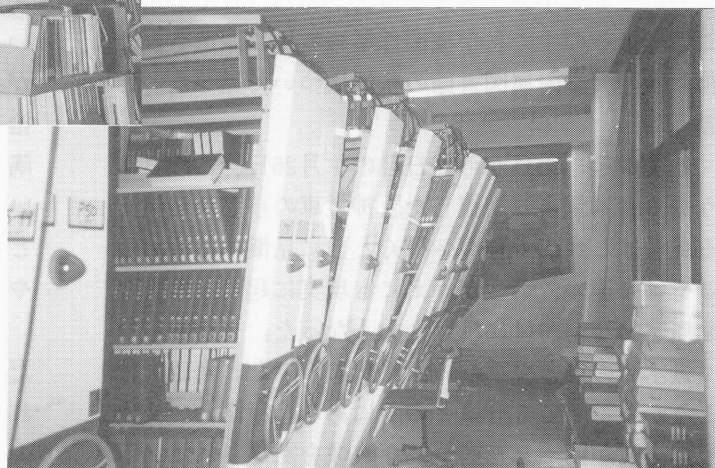
帰り際あらためて街の風景を見回した。すべてが、だれかの描いた抽象画の中の風景のようだ。だがこれはだれかの心の中を描き表したのではなく、現実の姿なのである。前日に強い余震があった。この日の作業中にも一度余震があった。空を飛び回るヘリコプター、サイレンを鳴らしながら行く救急車。不安な気持ちになってくる。一体ここはどここの国なんだろう。安穏とした日々を送っている私ではあまりに空々しくて、軽すぎて、「がんばって」なんて言えはしなかった。

（商船大図書館に対する支援は、1月26日から30日までと2月16日から24日までの2度にわたって行われた。私も2月20日に再訪したが、その時は閲覧室には書架が備わり、本もおおざっぱではあるが配架されていた。書庫も本や書架がいったん取り除かれ、次の作業に移れる状態になっていた。ボランティアとおぼしき学生も何人が参加しており、順調に復旧しているように見えた。被害について正確なことは把握していないが、振れてしまって使い物にならない書架が数個あったほか、破損してしまった本も作業中しばしば見かけた。それにしても図書館は地震にたいしては全く無防備である。これは京大図書館とて同じであり、もし利用者のいるときに大地震に見舞われたらどうするか、といったことも視野に入れて図書館作りを進めていかねばならないと思う。）

神戸商船大学附属図書館の被害状況



一般書架



集密書架

阪神大震災への京都大学附属図書館の対応

(1) 今回の阪神大震災で被害を被った、神戸商船大学と神戸大学の図書館復旧作業支援のために、1月26日から30日、2月13日から24日まで、京都大学附属図書館及び部局図書室から、延べ約40名が参加しました。

(2) 京都大学附属図書館では、今回の阪神大震災で被害を被った地域の学生や研究者の方々に、以下のように図書館を開放しています。

入館については、神戸大学・神戸商船大学の二つの国立大学の学生については、今年度中は、学生証のある・なしにかかわらず、閲覧願に記入した上で入館していただいています。閲覧願も通常より、幾分簡素化し、住所・氏名・大学名・「阪神大震災のため」と記入してもらうだけにしています。院生・教職員の方には共通閲覧証がなくても、署名だけで入館していただけるようにしています。

また、上記2大学以外でも神戸商科大・神戸市立外大・兵庫医大・武庫川女子大・甲南大・神戸薬大・神戸女学院などの大学の方、あるいは、大学受験を控えた高校生の方などが利用をしたいとのことで

当館を訪れられたので、同様の閲覧願いを記入してもらって入館していただきました。

図書の貸出については、神戸大学よりの依頼文書を受け、被災地域の神戸大学・神戸商船大学の二つの国立大学の学生に貸し出しています。京都大学の学部生なみに、開架図書・書庫内図書共2週間の期限で5冊まで借りられるようになっています。

この結果、2月末の時点で被災関係者は、204名の方が入館され、202冊の図書が貸し出されました。

なお、いくつかの部局図書室等においても、被災地域の方に対する便宜を図っています。

(3) 附属図書館一階のカウンター前に阪神大震災の被災者に対する義援金の募金箱を1月23日に設置し、2月10日までの間、協力をお願いいたしましたところ、180,345円集まりましたので、日本赤十字社に寄託しました。御協力ありがとうございました。

なお、京都大学学生部からの呼びかけで、京都大学の学生の中から被災された方へ、援助のための文房具・参考書・問題集などが、たくさん集まりました。この一部を附属図書館にも置き、来館された被災学生の方々に自由に使っていただいています。

資料紹介

寄贈図書の紹介

本学の教官等より附属図書館へ、平成6年1月から12月までに寄贈された資料を紹介します。

- | 寄贈者名 | 書 名 |
|----------------|---|
| 宮崎市定 | 宮崎市定全集 24 '94 |
| 岡村誠三 | 科学の知恵 心の知恵 '94 |
| 上山春平 | 上山春平著作集
第4巻：天皇制のデザイン '94
第5巻：神と国家 '94 |
| 上横手雅敬 | 古代・中性の政治と文化 '94 |
| 伊藤太一 | アメリカの森林環境保全の黎明 '93 |
| 四日谷敬子 | 個性性の解釈学：ライプニッツから現代まで '94 |
| 石黒武彦 | Organic Superconductors. '90 |
| 熊谷宏 | 地域農業の確立 '94 |
| 上林彌彦 | コンピュータと人間の共生：コンピュータによる障害者支援の展望 情報科学国際交流財団編 '94 |
| | 巨人データの世界 '92 |
| | Computers as Our Better Partners : Proceedings of the IISF/ACM Japan International symposium. H.Yamada et al. (eds) '94 |
| 佐藤進 | 価値の選択：現代科学技術文明を超えて '82
科学技術とは何か '82
新しい社会主義をめざして：ソ連邦、中国の批判的検討から '79
日本社会主義改造計画案 '76
一草園雑記・身辺雑記 野田弥三郎著 '79 |
| 石川光庸 | 匙はウサギの耳なりき：ドイツ語源学への招待 '93 |
| 菅原和孝 | 性的人类学：サルとヒトの接点を求めて 高畑由起夫編 '94 |
| 西村博行 | Proceedings of the Sixth International Wheat Genetic Symposium. Sadako Sakamoto (ed) '83 |
| 川上倫逸 | 法の文化社会史 '92 |
| 古川久雄 | Costal Wetlands of Indonesia : Environment, subsistence and Exploitation. '94 |
| 北川善太郎 | 親族・相続(民法講要5) '94 |
| Carl B. Becker | Paranormal Experience and Survival of Death. '93 |
| 岩井吉彌 | 新・木材消費論：生産・加工・流通の現場と未来 '94 |
| 高津春久 | 中世都市の女性たち エーリカ・ウィッツ著 '94 |
| 加藤尚武 | ヘーゲル事典 '92 |
| 佐藤康彦 | ヨーゼフ・ロート小説集1 '94 |
| 中村重久 | 陸棚沿岸の高潮 '94 |
| 初宿正典 | 暇つぶしは独語で：ドイツ留学体験記ほか '94 |
| 長尾眞 | 電子図書館 '94 |
| 朝尾直弘 | 将軍権力の創出 '94 |
| 紀平英作 | ドイツ農村におけるナチズムへの道 豊永泰子著 '94 |
| 富田恭彦 | クワインと現代アメリカ哲学 '94 |
| 服部文昭 | スラヴ語スラヴ文学の比較対象研究 '88
文献目録日本におけるスラヴ語学文学研究 1978-1988、1988-1993 '89, '94
Japanese Contributions to the International Congress of Slavists (10,11) '88, '93 |

(受入掛)

図書館の動き

商議会の開催(第3回および第4回)

平成6年度第3回の附属図書館商議会が、去る1月24日に開催されました。今回は、次期館長候補者の選考が主な議事でした。投票の結果、工学部長尾眞教授を、次期館長候補者として推薦することが決まりました。

また、平成6年度第4回の附属図書館商議会が、3月6日に開催されました。今回は、京都大学附属図書館将来構想検討委員会の報告、文系学部改築にかかる図書館面積の問題、平成6年度実行予算、平成7年度大型コレクション等の収集計画、平成8年度概算要求、平成7年度調査研究員の委嘱等が討議されました。

専門委員会の設置

平成7年3月6日に開催された、平成6年度第4回附属図書館商議会において、附属図書館の将来の在り方等について、専門的見地から、改革・改善のための具体策等について検討・審議し、附属図書館商議会に提言を与えるために、附属図書館商議会規

定に基づき、商議会の中に専門委員会を設置することが承認されました。

設置期間は、平成7年4月1日から平成8年3月31日までとなっています。

平成7年度調査研究員の委嘱

平成7年3月6日に開催された、平成6年度第4回附属図書館商議会において、平成7年度調査研究員の委嘱が承認されました。なお、電子図書館についての調査研究員に関しては、追加委嘱の予定で引き続き検討することとなりました。

「学術ネットワークの研究」(継続)

大型計算機センター 金澤正憲 助教授

目録業務システム専門委員会の開催(平成6年度第4回)

平成6年度第4回会議が去る3月2日に附属図書館で開催されました。今回は、昨年実施したアンケート調査の分析、まとめ、報告書の作成、次年度の活動方針等が討議されました。

目 次

<巻頭記事>

- ・館長在任3年を顧みて……………1

<お知らせ>

- ・図書館利用証を交付します……………3
- ・新入生オリエンテーションのご案内……………3
- ・中国語による附属図書館利用案内の発行について……………4
- ・附属図書館利用案内1995年版の発行について……………4
- ・図書館ツアーの実施について……………4
- ・全国共同利用図書資料(大型コレクション)の利用案内について……………4
- ・CD-ROM ネットワーク検索システムの

導入について……………4

<その他>

- ・阪神大震災の一こま……………5
- ・阪神大震災への京都大学附属図書館の対応……………6

<資料紹介>

- ・寄贈図書の紹介……………7

<図書館の動き>

- ・商議会の開催……………8
- ・専門委員会の設置……………8
- ・平成7年度調査研究員の委嘱……………8
- ・目録業務システム専門委員会の開催……………8

後 記

年明け早々、阪神地方を中心に震度7という激震に襲われました。想像を絶する大災害となり、大学図書館にも大きな被害を与えております。特に、神戸商船大学や、神戸大学等の被害状況を見聞すると、地震の発生が、開館時間内でなかったのが唯一の救いとも思われます。及ばずながら、私も神戸商船大学に書架整理などの支援に行ってきましたが、完全復旧にはこれからかなりの時間と人手が必要ではな

いでしょうか。

さて、編集委員として1年間やって参りましたが、本号が最後の仕事となりました。本編4号と特集号を発行しましたが、執筆者の労作を十分に生かしきれたかどうか、不安が残ります。新年度からは、新たな編集体制がスタートしますので、乞うご期待というところです。

(M)